

平成28年度 岡山県環境審議会政策部会 議事概要

(開催要領)

1 開催日時：平成28年10月6日(木) 9:30～11:00

2 場所：県庁分庁舎5階501会議室

3 出席者：

○委員(五十音順、敬称略)

岡本輝代志、沖陽子、勝山博信、河原長美、澁谷俊彦、野上祐作、藤木茂彦、宮林英子／計8名(欠席2名)

○事務局(県)

環境文化部次長、環境企画課長、新エネルギー・温暖化対策室長、環境管理課長、環型社会推進課長、自然環境課長、事務局職員

議 題	新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)の見直しについて
会議資料	別添資料のとおり
議事概要	【議事】 新岡山県環境基本計画の見直しについて
事務局説明	(環境企画課長が資料に基づき説明)
—委員意見— 意見1	・PM2.5対策について、注意喚起メールとはどんなものか。
環境管理課長	その日の午前中の数値により、基準を超えるおそれがある場合に注意喚起を行うが、その際に、報道発表等だけでなく、県の防災情報メールの配信システムを通じて、直接県民に情報をお知らせするものである。
意見2	・小水力発電の導入促進について、指標の努力目標に、件数だけでなく容量(ワット)の記載は併記出来ないか。
新エネルギー・温暖化対策室長	並行して見直しを進めている新エネルギービジョンとの整合を図る必要があるが、この件数については非常に高い目標となっているところ、これまでの取組経緯も踏まえ、目標を下げることなく取り組んでほしいとの意見もあり、現行のままの案としている。
意見3	・県内の小水力発電の導入状況はどう把握するのか。農業用水など適地は多いが、太陽光発電のようにはなかなか進まない状況もある。

新エネルギー・ 温暖化対策室長	導入状況は、固定価格買取制度によるものであれば、国のデータから把握できる。県内には三大河川もあり水資源が豊かで小水力発電への期待は大きい が、実際には一定規模のものは既に電力会社実施しているなど現状は難しい。 一方で、近年は機材も様々に開発され、農業用水などを活用した、より 小規模な取組が注目されている。
意見 4	・田舎には小水力発電に適した場所が多くある。それにより得られた電力を、 独立した小さなコミュニティで活用できれば災害にも強い。導入にあたって のアドバイスや勉強会をしていただけるとありがたい。1地域でもモデルが 出来ると他地域へも拡大するのではないか。
新エネルギー・ 温暖化対策室長	これまでも農林部局と連携してセミナーなどを実施しており、引き続き、広 く情報提供を図っていききたい。また、地域への導入推進については「スマー トコミュニティ」の項目を掲げているところであり、お話のような、売電に とらわれず一定のエリアで自家消費する取組も考えられる。
意見 5	・セミナーへの参加者が成果につながらないといけない。県主催のセミナー のみのカウントか。
新エネルギー・ 温暖化対策室長	実際の新エネ導入につながるよう、広く情報提供を行う指標としている。県 の行うセミナー等をカウントすることとしているが、経済団体等との連携も 図れれば大変ありがたい。
意見 6	・小水力発電が山間部で導入が進めば、地域が元気になる。地域資源を生か した、まさに里山資本主義ではないか。
意見 7	・小水力発電のブームはかつて農業部門でもあったが下火になった。今また 導入のブームが起きているが、なぜ下火になったのか検証する必要がある。
次長	小水力発電で一定程度の電力を得るには、ある程度多額の投資が必要とな る。また人口減少を迎える現在、人の確保など管理面からの不安が、一層の 拡大につながらない要因の一つとも考えられるが、今後はイノベーションの 進化にも期待していきたい。
意見 8	・家庭ごみはどう推移しているのか。例えば容器包装リサイクルがどの程度 できているか見えてこない。実際にリサイクルに取り組んでいる人はどれく らいか数値化できないか。
循環型社会 推進課長	生活系ごみの推移は、次回の廃棄物対策部会でもお示しする予定。国からも 家庭系ごみ削減に取り組むよう言われており、それを受けて指標を新たに設

	<p>定した。容器包装リサイクルの実施主体は市町村であるが、市町村においても分別等に取り組んでおり、確実に効果は上がってきていると感じている。県としては、ペットボトルなどから再生したエコ製品の紹介などを通して、引き続き分別やリサイクルの効果を示していきたい。レジ袋を辞退している人についてアンケートを行って、取組の効果を数値化した例はある。</p>
<p>意見 9</p>	<p>・食品の大量廃棄について、廃棄物として引き取る業者と、家畜のエサとして回収したい業者間でトラブルが発生していると聞く。県にはそのあたりの交通整理も検討いただきたい。</p>
<p>循環型社会 推進課長</p>	<p>食品ロスを取組は、現時点進められていないが、今回の計画の見直しに伴い、食品ロス対策の項目も記載を検討している。</p>
<p>意見 10</p>	<p>・ディーゼル自動車粒子状物質対策済率の現状 58.7%はどのような数字か。</p>
<p>環境管理課長</p>	<p>排ガス規制は段階的に強化されてきたが、現在走行しているディーゼル車には、古い規制をクリアしている車と新しい規制をクリアしている車が混在している。この指標は比較的新しい規制をクリアしている車の割合である。</p>
<p>意見 11</p>	<p>・素案本文 P3 以降のトピックスについて、もう少し平易な文章での記載をお願いする。ここ数日、パリ協定の批准・発効について報道されているように、こうした記事は、すぐに状況が変わり記載内容が古くなってしまうのではないか。</p>
<p>新エネルギー・ 温暖化対策室長</p>	<p>科学的な根拠である IPCC の報告書や、パリ協定の概要については今回の見直しに伴い記載する意味があると考えている。現在記載しているものは、案では、パリ協定の 2℃目標や、国の温室効果ガスの 26%削減目標などポイント部分を記載しており、この内容が数年で変わることはない。文章については平易な表現に努めたい。</p>
<p>意見 12</p>	<p>・ESD について、岡山市は RCE (地域の拠点) として当初の設立にも携わっているため、そのことも記載してほしい。</p>
<p>意見 13</p>	<p>・計画を誰が読むのかを意識した記載としてほしい。桜の開花時期など岡山県の身近な環境の変化がいくつか入れば、読みやすくなるのではないか。</p>
<p>意見 14</p>	<p>・落書き防止の取組地区の目標数値はゼロの方がよいのではないか。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>平成 13 年の条例制定以降、落書き防止活動に取り組んだ結果、最近ではかつてのような大規模な落書きは見られなくなったが、全く無くなったわけで</p>

<p>意見 15</p>	<p>はない。市町村においても、重点取組地区を指定するほどの推進ニーズが見られないことから、今後どういう形で実施するか検討している。指標については、廃止する方向で考えている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 行動を刺激する各種施策は行われているが、根源的な部分として県民・事業者の環境への意識が伸びていない感覚がある。レジ袋が最たる例で、意識自体をどう変えていくか、もっと考える必要がある。・ 事業者に対する細かい規制は、必ず経済に弊害となって現れる。次回の計画になるかもしれないが、環境を重視した経済成長が必要と記載していただきたい。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------